

北越太平記（北越軍記）

宝永八（1711）年刊本。序には「寛永二十年癸未九月良
莫洛東隱士雲菴謹テ題」とあるが定かならず。

『越後史料叢書』第一編所載の校訂本『北越太平記』卷
之四中より。文頭の八月は永禄十一年。

（表白文の返り点、送り仮名は不備と思われるがママとする）

八月謙信川中島へ出馬領分巡見。其刻戸隱山へ参詣諸国より
祈請せいの願書數百通有レ之。其内武田信玄より謙信調伏の願書
あり。弓箭にて不レ叶して輝虎を呪咀しゆそする事。一身の大慶な
りと。謙信被ニ嘲笑一摠じて信玄は大威徳明王を尊崇そんしうし。弘法
大師自筆の畫像を安置みぞうし。謙信を呪咀しゆそせらるゝと云々調伏呪
咀へうほうの表白へうほうの文と。大威徳明王の尊像于レ今高野山成慶院に在
之レ

大威徳明王表白の文に曰謹ことにはて敬ことにはて白ことにはて惣體別ことにはニ寶特者人魔降
伏大威徳明王等に一而言ことにはく方今信玄欲ことには下立ことにはニ家名募ことにはんと武功ことには上ことには自修

大威徳の之密供にていればそれ者夫信玄舉レ幡を荷戈を雖レ征ニ隣國一相越

しりぞけんと

跨^二于南北^一爲^レ斥^二吾運^一然^レ而雙方是鼓^レ瑟也發^二于厥悲鳴^一
吾手^の之所^一擊焉矧^{いはんや}今此明王聽^レ有^と下降^二人魔^を之願力上卒爾
勤修^二一家^一之衰亡^一進^て而禱^二于輝虎消滅^一々^を豈^ら不^{んや}快^を乎
仰^ぎ願^くは本尊聖者怨者折伏^{せつぷく}之大望速^に令^二成就圓滿^一給
右の通に謙信を呪詛調伏せらるゝ。信玄自筆の願文今に高野
成慶院にあり

註 国立国会図書館デジタルコレクションに『越後史
料叢書』(DOI 10.11501/1704147)の画像あり。
第一編の44、45コマ目。

『北越軍記』は『北越太平記』と同じであるが、一応次にあ
げておく。

『北越軍記』

文頭の八月は永禄十一年。

(表白文中の返り点、送り仮名は原文通りを心がけたが、字形の崩れで読

み取りに不確かなものもある)

八月謙信川中島へ出馬領分巡見。其刻戸隠山へ参詣諸国ヨリ
祈請^{セイ}ノ願書數百通有^レ之。其内武田信玄ヨリ謙信調伏ノ願書
アリ。弓箭ニテ不^レ叶シテ輝虎を呪咀^{シユン}スル事。一身の大慶ナ
リト。謙信被^ニ嘲笑摠ジテ信玄ハ大威徳明王ヲ尊崇^{ソシウ}シ。弘法
大師自筆ノ畫像を安置シ。謙信を呪咀^{シユン}せラルト^云。調伏呪
咀^{ヘウハク}の表白ノ文ト。大威徳明王ノ尊像于^レ今高野山成慶院ニ在
レ之

大威徳明王表白ノ文ニ曰謹^テ敬^テ白^テ惣體別體三寶特^{コトニハ}者人
魔降伏大威徳明王等^ニ而言ク方今信玄欲^下立^ニ家名募^中ト武

功^上自修大威徳ノ之密供^{テイレバソレ}者夫^信玄舉^シ幡^ヲ荷^テ戈^ヲ雖^レ征^ニ隣

國^一相越跨^ニ于南北^一爲^レ斥^ニ吾運^一然^シ而雙方是鼓^レ瑟
也發^ス于厥悲鳴^ヲ吾手ノ之所^一擊焉矧^{イハンヤ}今此明王聽^レ有^ト降^ニ?

人魔^一之願力^上卒爾勤修^ニ家ノ之衰亡^一進^テ而禱^ニ于輝虎消
滅^一? 豈^ニ不^レ快^ラ乎仰^ギ願^クハ本尊聖者怨^者折^テ仗^之大望^{セツチャラ}

速^ニ令^ニ成就圓滿^一給

右ノ通ニ謙信ヲ咒詛調伏セラルト。信玄自筆ノ願文今ニ高野
成慶院ニアリ

註 越後佐渡デジタルライブラリーで『北越軍記 卷之

4』として画像公開。該当箇所は51頁と52頁。